

## 令和7年度 第2回健康づくり委員会 議事録

日時	令和7年12月18日(木) 午後7時～午後8時37分	場所	原村保健センターそよかぜ
出席者	事務局 伊藤保健福祉課長・浦野健康づくり係長 松澤・西野・荒木	委員	別紙参照
公開・非公開の別	公開	傍聴者の数	0名

### 議 事 内 容

1. 開会

2. あいさつ

委員長： お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。本日の議事内容としましては、健康増進計画の事業報告、それからポスター施策の評価など、皆様の立場から貴重なご意見を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事

1) 健康増進計画(第3次)「健康はらむら21」の進捗状況

・令和7年度中間報告令和8年度事業計画 ・データヘルス計画 中間報告

事務局：資料P1 栄養・食生活、身体活動運動、休養・睡眠、飲酒、喫煙、歯・口腔の健康、生活習慣病予防・重症化予防 説明

事務局：資料P2 生活機能の維持・向上、こころの健康、母子保健・予防接種 説明

(質疑なし)

2) 年間事業について

事務局：資料P3～7 (1) 春夏秋冬 健康チャレンジ!プロジェクト 説明

委員長：春夏秋冬健康チャレンジプロジェクトについて、想定している参加人数はどの位ですか。

事務局：40名程度を想定しています。夏は達成できたのですが、秋は少なかったということです。

委員長：地区行事と重なってしまったことがあって、今後は気をつけましょうということですね。ありがとうございました。

(質疑なし)

事務局：資料P5 (2) ずくだせカフェについて 説明

委員長：ずくだせカフェには、私自身も参加していろいろ意見を述べましたが、コミュニケーションを増やす場が欲しいという意見がワーキンググループの中でよく出ていたと思います。今のずくだせカフェのまとめに、ご質問がありましたらお願いいたします。

事務局：補足します。このずくだせカフェは、6ページの表の下にも結果として記載していますが、村はこの健康づくり事業を進める上で、住民の皆さんの貴重なご意見を聞ける大切な場として位置づけています。カフェというリラックスした雰囲気の中で、お茶を飲みながらBGMを聞きながら、ざっくばらんに話しかけられる環境を提供し、様々なご意見をいただきました。今回、6ページの下にある通り、健康診断を続けるには何かお得なポイントのようなものがあれば嬉しい、仲間と一緒に続けられる、1人で行ってくださいというの

はなかなか重いけれど、気心知れた仲間と楽しみながら行けるなら、例えば運動教室でも続けられるのではないかと、本音で話ができる場が欲しい、そのような生の声をいただきました。こうした意見を踏まえて、来年度も事業を進めてまいります。1人でも多くの住民に健康診断や運動教室に参加いただけるよう、貴重な意見を踏まえながら来年度以降も様々な事業を展開してまいりますので、よろしくお願いいたします。

(質疑なし)

### 3) 禁煙促進ポスターについて

事務局：資料 P8 禁煙促進ポスターについて説明

委員長：禁煙ポスターについて、何かご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

委員 A：自分自身に対して訴えかけているものがほとんどなのですが、受動喫煙に関して訴えているようなものも必要かなと思います。私は 13 番を選びました。なぜかという、受動喫煙も関係しているからです。広い意味でのアプローチになるかなと思います。他のものは全部自分のことですが、公衆的に考えて、自分だけでなく周りにも迷惑をかけるということを訴えている点を評価しました。

(投票・集計結果)

健康づくり委員会賞：11 番、⑤番

優秀賞：13 番、18 番、②番、④番

委員長：来年度、ポスターをお願いする際に、禁煙についての背景、こういうことが問題ですということを簡単に添えていただいて、それをどのように表現していただくかという形で依頼すると、さらにより作品が期待できるかなと思います。

事務局：ただいまいただいたご意見を踏まえ、来年度、ポスターを描いていただくお子様にも趣旨が伝わるよう、こちらから説明をさせていただきたいと思います。

### 4) その他

・保健事業および保健補導員活動のあり方について

事務局：資料 9～13P 説明

委員長：第 1 回の委員会の時、委員 A から名前があまりピンとこないのではないかとのご意見をいただきました。全くその通りだったと思います。今回の結果を見て、事務局がおっしゃったように、ここで決定する場ではございませんが、ご意見、ご質問があればと思いますので、お一人ずつ感想をお願いできればと思います。

委員 A：保健補導員という名前は聞いていましたが、活動内容は全くわからず、今まで生活してきました。私も保健補導員がいないところで生活していたので、今回資料を見て、その内容等がわかりました。知り合いから聞いたところ、負担に思うという話をちょっと聞いていたので、あまり負担にならずに、上手くやっていける

ようにすれば、難しいと思いますが良いのではないかと思います。今回、色々資料を見た中で、一つ気になったのは、行政は行政の中でこの目的、健康づくりだったり行政からの視点で予算を組み、事業をやっているかなければいけない。一方で、一般の住民も自主的に活動を、これらのことを自主的に活動されている団体やボランティア活動があります。そこの横のパイプの繋がりが無い。ボランティアさんは自分たちの気持ちの中で活動していて、行政は行政でまた同じようなことを違う視点でやっている。行政はやっぱり強いのは、予算がちゃんとあることです。その中で住民の税金を使ってこういう活動をやってみようとしたところの視点なので、そこは民間とは違うところですが、最終的な目標とするところは同じゴールです。皆が健康的に、家族が健康的に生活しやすい環境づくり、健康づくり、それから子育て支援も、同じゴールでありながら登る山のルートが違う。ルートが違う点は異なりますが、同じことをやっていくわけです。私の提案としては、民間でも行われている、例えばボランティア活動や公民館活動をやっている団体に対して、補助金や助成金で、あなたのやっている活動は1年間通してすごい成果があって、これだけの会員さんに健康づくりの活動をされていますね、子育て支援の活動をされていますね、と評価し、その活動に対して補助する意味での税金の使い方があってもよいのかなと思います。今のこの組織の中で、補助金や助成金で、あなたの活動は評価されました、応援していますよ、何か助成するようなものがあったらよいのではないかなという発想が浮かびました。これはこの中にはないことですが、以上です。

委員B：今後、役員を受ける方が、地区から保健指導員をやってほしいという感じで頼まれる方が出てくるのかなと思います。やっぱり役員の活動内容が分からないという部分があり、自分が中心になって活動しているという感じが持てないというお話も聞きました。正直、自分もこの役員をやって、どういう仕事をしているのかわからなかった部分がありますので、ここでもう少し理解を深めてもらう必要があると思います。ボランティアへの補助金も、主体的に活動していきやすくなると思います。行政からの一声でやらなければいけないような部分が正直あるので、健康づくりは大事なことで、負担を軽減する手法はもうちょっと考えていく必要があると思います。

委員C：保健指導員としての活動内容、地区での役割がどんなものか、どんな研修をやったりとか、正直、初めて役員をやって初めて知ったことがかなり多くありました。人口減少で言えば、子どもがいない家もいる家もありますが、やる人が限られてきます。地区が今だいぶ減っている中で、地区の役員さんの確保、やってもらう人がいないから1人のところに集まってきてしまうのが、やっぱり今後出てくると思います。ちょっと前だと、今だと奥さんが家について、農家で60歳や65歳で退職されて、現役で役員ができるパターンがありました。でもこれからの時代、そのパターンが崩れて、70歳まで会社員として働くことになるので、この地区の役員に全力を注ぐのは難しい時代がちょっとずつ来ているのかなと思います。もちろん、できることは皆で地区でやっぱり役員をやると、同世代だとかちょっと知り合えて、こんなことやってるんだなって知る、それはそれでとても大事なことです。自分が地区に出て行くきっかけとしては、逆に役員は凄くよかったです。いろんな人と知り合えたなと思っています。ただ、役員がやっぱり大変で、夜、子供を預けて出てきてる中で役員をやっていくと思うので、難しいし続かないと思います。できればもうちょっと活動内容が分かるように、何かの方法でアピールすれば、私たち世代でもそんなものがあるんだと分かります。SNSやXなどで、こんなことをやっていますよということを発信すれば、人と関わって、将来自分が引きこもりにならないためにも、今出ていくと繋がりができて楽しいですよみたいな、何か理由を示してもらえると参加しや

すいかなと思います。面倒くさいんでって終わらずに済むかなと思いました。

委員 D：民生児童委員ですら、選出も国から委嘱されていますが、出ていない地区もあります。また、出て行って色々知るだけけれども、役が終わると終わってしまいます。色々大変な状況ですが、私は基本的に、人と人との関わりとコミュニケーションが基本的に大事だと思っています。行政にもそういう視点でぜひ取り組んでいただければ良いかなと思います。なかなか難しい問題ですね。さっき補助金という話がありましたが、それも一つの案ですが、望ましい姿はそういうものが自分たちで主体を持ってできているような環境になっていくのが一番よいのではないかなと思います。

委員 E：負担にならないようにできるような環境が望ましいと思います。そういうふうにしていくと、何らかの支援ができるのではないかなと思います。ただ、そのメリット・デメリットが必ず出てくると思います。やるのかやらないのかという選択になってしまいますが、負担を減らして皆でストレスにならずにやっていけるような環境づくりは必要だと思います。

委員長：皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。さっきのアンケート調査の中で一つ気がついたのが、13ページの例です。自治会独自の役割がありましたかという質問で、防災関係や清掃、運動会などがあると答えた方が半分いらっしゃいますが、無いという方も半分いらっしゃいます。私も以前に保健補導員をやりました。前任者から聞かされた困りごとという感想が、色々な所に出て講習会で知識を得て、自分のためにはなりました。ただ、それを地域に広げていく手段がないのが、ずっと残っていました。13ページを見て、区や自治会から代表として来て活動されて、それを持っていくという役割が明確にはないと思いました。区の役員会や自治会の役員会に持って帰って報告すればよいようなものでも良いと思いますが、実際に自分で考えて活動してくださいというのは難しいと思います。何か持って帰って、例えばレントゲン撮影がありますとか、インフルエンザの予防接種が始まっていますとか、そういう簡単な連絡係でもよいと思いますが、コミュニケーションを持つ、行政と地区との間のことをもうちょっとやっていただくとか、何か自分が地区の健康の増進の役に立っているという簡単なことでもお願いをして、負担にならないことが重要だというご意見もあったので、何かもうちょっとやっていただく、やっていただくためにはこういうふうにやってくださいということを明示していただければよいかなと思います。今日いただいているリーフレットのようなものとか良いと思いますが、それを準備して活動していく。職員が今日の間接報告や事業計画ではいろいろと苦労されていると思いますが、これのお手伝いとか、これを一緒に地区に持ち帰ってやっていただくとか、そういうコミュニケーションをする場を作っていただく、コミュニケーションのきっかけを作っていく。先ほど委員さんがおっしゃっていただいた、行政としては広く皆さんに何か活動や知識や機会を提供しますが、それに引っかけられないけれど、手を挙げて私はこういうのやりたいという方には、予算の範囲内で多少補助金を出していただく。トップダウンとボトムアップと両方の動きが実現できれば、もうちょっと中身の濃い活動が期待できるのかなと思いました。やっぱり、せつかく1年また2年間活動していただいて、保健補導員や、食生活改善部会、それから環境衛生部会、実際に期間が終わると、ほっとしますが、やっと慣れた頃にもう活動がなくなっちゃったなと最後にきつと思うと思います。そうすると、OB・OGを含めたイベントもやっていただけると良いのかなと思います。もう切りたいという方もいらっしゃるかとは思いますが、もうちょっとお付き合いいただける方には、そういう機会を提供するのもよいのかなと思いました。皆さんの

お話を聞いたのと、私自身の感想をちょっとお伝えさせていただきました。

事務局：委員長をはじめ皆さん、それぞれご意見をいただきました。行政の立場から、現状およびご意見いただいた中でのお返しをさせていただければと思います。貴重なご意見をありがとうございました。やはり皆様が感じている部分、この保健補導員は地区・自治会から選出されるという成り立ちからの課題、かつてはそれが当たり前で、そろそろ私の家だなどというところで自然と出てきて、今ほど困難ではないような状況で選出されてきたという流れがありました。もう時代の中で、委員がおっしゃられた通り、民生委員ですら選出がままならない、もっと言えば区長を選出するののままならない、前の年に非常に苦勞して区長さんも選出してくる地区もある中で、各自治会、特に地方を含めて長野県内の市町村は、どうしても自治会・地区・区の範囲から村の事業をお願いしながら広めていくのが、もう地方、特に市町村のパターンになっています。それがもうままならないという、そういう状況に現実になりかけていることは私どもも痛感しているところです。ですので、こういったものは、行政、我々事務職員だけでこの原村の健康づくり事業を進めていかれるかということ、やはり地域の皆様と連携しながら提供していくという関係性がない限り、この8000人単位の村で我々、この人数では不可能としか言わざるを得ない状況です。そういったところを自治会任せにすると、もうそもそも成り立たなくなってきたのではないかとということも、行政としては重く受けとめて、今後、2年後3年後というよりは、この先さらに後期高齢化もピークを迎えた後に、また人口減少が加速してまいりますけれども、先々を見て考えていかなきゃいけないという中で、貴重なご意見をいただいたと思っております。現状、村の最上位計画である原村総合計画の中に、この保健補導員さんと健康づくり、この事業を展開していくという大きな村の中の目標を掲げられている状況でありますので、現状においては村としては基本、この補導員さんとの連携をしながら健康づくり事業を展開していくという方針には、現状変わりはないというご理解をお願いできたらと思っております。ただ、委員がおっしゃられた通り、それだけではなくて住民からの自主的な活動、こういったものも存在しているという認識はしておりました。そこをどのように支援して、補助金という形の支援なのか、また村の事業の中で一緒に協力関係を結んでいく中の支援なのか、それは今後の検討課題として、そういう事実があるという認識をさせていただく中で、またどこかお話を伺えたらと思っております。基本的には先ほど申し上げた通り、村の方針・方向性に向かって進めさせていただければと思っております。その中で、今皆さんの課題を含めて、良い形での事業展開ができるように引き続き努力していければと思いますので、また引き続きご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

委員長：一言余計なことを言うと、戦後はその衛生状態や栄養が問題だったけれど、今はがん予防や食べ過ぎ防止など、皆さんピンとくるテーマに変えるのも一つかなと思います。他に何か、もう一言付け加えたいという方がいらっしゃれば、ぜひお願いします。よろしいですか。

(質疑なし)

## 8. 閉会

副委員長：12月になっても気温差が激しく、週末は雨の予報だったようです。ただ、今すぐ乾燥していて、インフルエンザとコロナが流行して大変です。体調に気をつけてお過ごしください。これで閉会とさせていただきます。お疲れ様でした。

### 健康づくり委員会名簿

役職	氏名	所属団体	出欠
委員長	土屋 和夫	原村保健衛生自治推進協議会	出席
副委員長	福原 美由紀	諏訪薬剤師会	出席
委員	小倉 輝久	衛生自治推進協議会（保健補導員部会）	出席
委員	小林 聡子	衛生自治推進協議会（食生活改善部会）	出席
委員	三輪 育美	衛生自治推進協議会（母子愛育部会）	出席
委員	山崎 幸路	原村スポーツ推進委員会	出席
委員	野明 晃	原村社会福祉協議会	欠席
委員	平林 とし美	原村民生児童委員協議会	出席
委員	古清水 巖	原村教育長	欠席
委員	阿部 泰和	原村国民健康保険運営協議会	欠席